

## トーランス市で見られる多様性について

伊澤 梨花（高校2年）

私がアメリカに行き、最も大きな違いだと感じたのは生活のあちこちに多様性が見られることです。多様性と言っても様々なタイプの多様性がありますが、私は特に「国」の多様性が広いと感じました。アメリカは多くの移民やその子孫によって構成された国です。そのため、個人のバックグラウンドに何かしらの「アメリカ以外の国」の存在を持つ人が多く、いろいろな場所でそれを実感することができました。具体的に2つ例を挙げて考えていこうと思います。

まず一つ目はスーパーマーケットです。私は滞在中ホストファミリーに何回かスーパーに連れて行ってもらいましたが、一番驚いたことはその商品の種類の多さです。メキシカン料理でも有名な種類豊富なトルティーヤやブリトーが売られていたり、インド料理用のスパイスが大きな棚にぎっしりと詰められていたり、日本をはじめ中国、韓国、タイなどのアジアフードの食材がかなり置かれていたり、と一つのスーパーでもとても多くの国の食材や商品を見ることができます。単に店が広い分多くのものを置くことができるからと言う理由だけでなく、様々な国の料理を作ることができるようにと考えられているからこそ見られる光景なのだと感じました。またトーランスには日本の食材や雑貨を中心として売っている店もあり、より細かく一つの国に触れられる機会があるとも感じました。

次に2つ目は住宅です。ホストファミリーと住宅街を散歩していて様々な建築様式の家を見ることに気づきました。スパニッシュスタイルの家の横にヨーロッパスタイルの家が建っていて、またその横には日本にもありそうなモダンスタイルの家が建っている、という光景は新鮮で、それぞれのライフスタイルを反映しているようにも見えました。また植物を植えたり門を設けている家も多く、もちろん内部や家具のデザインにもそれぞれの家が様々な手段で個性を演出していました。家は最もリラックスする空間だからこそ、その家族の同一性が反映されやすく、私が見た光景は異なったバックグラウンドを持った人々がそれぞれ自分らしく生活している証だとわかりました。

トーランスで過ごした期間には、上記の2つの例以外にも言語表記やレストランの種類など多くの生活の面で多様な文化や価値観に触れる機会がありました。この夏の経験から私は、多様性とは人々が自身のアイデンティティを大切に保ち、互いが尊重し合うからこそ生まれるものだと思います。そしてそれを理解し生活することは広々とした視野と柔軟な考え方が伴うと改めて思います。グローバル化が進み、異なるバックグラウンドを持つ人々と交流する機会が増えていく現代と今後の私の人生において、この夏経験したことと見いだせたことは絶対に生かされていくと心から感じます。これからより多くの新しい物事への見方を追求し、多面的に考えて行動できる人になりたいです。一生忘れない、素晴らしい機会をいただいたことを本当に感謝しています。

